

釧路湿原川レンジャー News

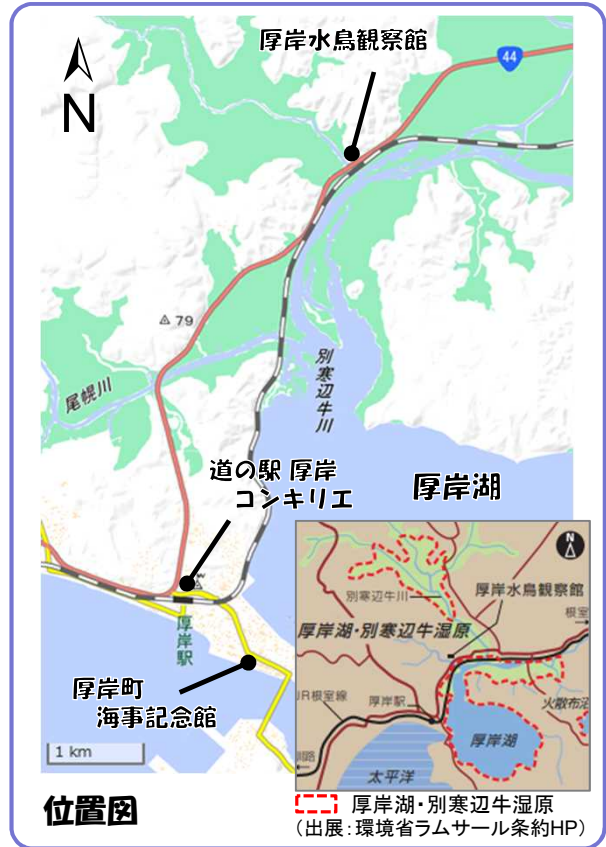
2023 Vol.4

第3回「釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました！

「第3回 釧路湿原川レンジャー学習会」を令和5年10月21日に開催し、22名が参加しました。午前中は厚岸水鳥観察館において、別寒辺牛湿原をはじめとした厚岸の自然環境について解説を受けました。午後は、厚岸町海事記念館において解説を受けながら展示物を見学し、後半は厚岸町海事記念館オリジナルのプラネタリウム「カムイからの教え～魚を伝える曳き網の星～」を鑑賞しました。



厚岸水鳥観察館にて記念撮影



位置図

厚岸湖・別寒辺牛湿原
(出展: 環境省ラムサール条約HP)

■ 厚岸水鳥観察館について

厚岸水鳥観察館は、水鳥・湿地センター（現在、国内に11施設が設置）第一号として平成7年4月に開所しました。ラムサール条約登録湿地である「厚岸湖・別寒辺牛湿原」に関わる普及啓発活動や調査・研究、監視などを行う拠点となっています。

1階には展示のほか、別寒辺牛川河口周辺を望むライブ映像が流されており、高台に設置されている遠隔カメラを操作し、映像を楽しむことができます。2階は別寒辺牛川河口を展望できる観察コーナーとなっており、フィールドスコープも設置されているため、飛来した水鳥などを観察できます。

■ 解説と湿原体験

① 厚岸湖・別寒辺牛湿原について

厚岸水鳥観察館の澁谷館長に、厚岸湖・別寒辺牛湿原について解説していただきました。

はじめに、厚岸水鳥観察館がYouTubeに公開している動画を、澁谷館長の解説付きで鑑賞しました（YouTubeのページもしくはアプリにて「厚岸水鳥観察館」と検索すれば、すぐにチャンネルが見つかります）。後半は、動画内では触れられていない厚岸周辺の自然環境や地理的な歴史、厚岸町の町としての歴史などについてご紹介いただきました。



解説の様子

②湿原を体験しました

解説後は野外活動として、セピア色になったヨシ原をかき分けながら湿原内へ立ち入りました。ヨシは人の背丈より少し高く、繁茂しているため、十数メートル進むと最後尾からは先頭が見えなくなるほどでした。長靴で立ち入ることができた距離はあまり長くありませんでしたが、踏むと谷地水が染み出てきたり、ところどころブヨブヨとして足元が不安定な場所があったりなど、湿原を直接体感できました。



湿原内へ立ち入る様子

■ 厚岸町海事記念館について

厚岸町海事記念館は、厚岸町と海との関わりを後世に伝えることを目的に、厚岸町役場庁舎前に昭和63年10月1日に開館しました。

1階にはアッケシソウ、漁業、アイヌ文化などについての展示があり、2階には日本最東端のプラネタリウムがあります。ちなみに、厚岸町海事記念館と厚岸町役場とを上空（空中写真）から見ると、厚岸町海事記念館を船首に船の形になっています。

■ 展示の解説とプラネタリウム

①館内展示や周辺自然環境について

厚岸町海事記念館において、菅原館長より解説をいただきながら館内展示を観覧しました。

はじめに、町の名前がついているアッケシソウや、その人工栽培について詳しく解説していただきました。このほかにも、厚岸湖周辺の自然環境として、大黒島の環境やそこに住むゴマフアザラシやゼニガタアザラシ、コシジロウミツバメなどの生き物や、アイヌ文化に関わる出土品、漁業の歴史などについても学ぶことができました。



アッケシソウの解説の様子

②プラネタリウムを鑑賞しました

今回は「カムイからの教え～漁を伝える曳き網の星～」を鑑賞しました。厚岸町海事記念館オリジナルの構成となっており、アイヌの文化とノチウ（アイヌ語で「星」の意味）との関わりについて紹介しています。アイヌの人々が他の文化と同様に夜空に星座を描いていたことや、ノチウについての言い伝えなどについて知ることができました。

■ 観察活動の報告

川レンジャーより観察活動の報告がありましたので、ご紹介いたします。みなさまからの活動報告をお待ちしております。

報告日	報告内容
令和5年8月10日	大規模運動公園の湿原木道において破損箇所を確認しました。また、釧路市都市整備部公園緑地課に報告しています。
令和5年8月14日	旧雪裡川沿いでクイナのヒナ3羽を確認しました。
令和5年9月8日	新釧路川右岸の公園周辺を散策しましたが、異常ありませんでした。また、左岸についてもゴミ捨てなどは見られず、良い散歩エリアと考えます。